

(公表資料をもとに当センター事務局が作成)

国立環境研究所発行「地球環境研究センターニュース」(2014年6月号)

## 「地球温暖化は生態系や人間社会にどんな影響を及ぼすか？」の要旨

～IPCC 第2作業部会第5次評価報告書～

△ 地球温暖化による深刻な影響の可能性、つまり「主要なリスク」について、規模の大きさ、生起確率、影響の不可逆性の基準を設定し、複数セクタ・地域にまたがる8事項を選定・提示しています。

- ①**海面上昇、沿岸での高潮** 高潮、沿岸洪水、海面上昇により、沿岸の低地や小島嶼国において**被害などによるリスク** 死亡、負傷、健康被害、または生計崩壊が起きるリスクがある。
- ②**大都市部への洪水による被害のリスク** いくつかの地域において、洪水によって、大都市部の人々が深刻な健康被害や生計崩壊にあうリスクがある。
- ③**極端な気象現象によるインフラ等の機能停止のリスク** 極端な気象現象が、電気、水供給、医療・緊急サービスなどの、インフラネットワークと重要なサービスの機能停止をもたらすといった、社会システム全体に影響を及ぼすリスクがある。
- ④**熱波による、特に都市部の脆弱な層における死亡や疾病のリスク** 極端に暑い期間においては、特に脆弱な都市住民や屋外労働者に対する、死亡や健康障害のリスクがある。
- ⑤**気温上昇、干ばつ等による食料安全保障が脅かされるリスク** 気温上昇、干ばつ、洪水、降水量の変動や極端な降水により、特に貧しい人々の食料安全保障が脅かされるとともに、食料システムが崩壊するリスクがある。
- ⑥**水資源不足と農業生産減少による農村部の生計及び所得損失のリスク** 飲料水や灌漑用水への不十分なアクセスと農業の生産性の低下により、半乾燥地域において、特に最小限の資本しか持たない農民や牧畜民の生計や収入が失われる可能性がある。
- ⑦**沿岸海域における生計に重要な海洋生態系の損失リスク** 特に熱帯と北極圏の漁業コミュニティにおいて、沿岸部の人々の生計を支える海洋・沿岸の生態系と生物多様性、生態系便益・機能・サービスが失われる可能性がある。
- ⑧**陸域及び内水生態系がもたらすサービスの損失リスク** 人々の生計を支える陸域及び内水の生態系と生物多様性、生態系便益・機能・サービスが失われる可能性がある。

△ 将来リスクに関して、「気温上昇量が大きくなるにつれ、深刻・広範・不可逆な影響の可能性が高まる」「気温上昇が最小なるシナリオでは、気温上昇が最大となるシナリオに比べ、特に21世紀後半において、リスクが大幅に軽減される」と評価しました。

以上